

# ウコギ (*Acanthopanax spinosus*) の増殖法

戸澤一宏

Consideration of condition about  
Multiply *Acanthopanax spinosus*

Kazuhiro TOZAWA

**Summary :** It reviewed about the part and the thickness of the branch to use for a putting-in ear about the propagation method by the quickset of *Acanthopanax* (*Acanthopanax spinosus*), the head-end to use and so on.

As a result, as for the part to use for a putting-in ear, the diameter of the branch and the putting-in ear was proved last year and an enough thing was proved by being flooded about the Kanuma soil + promix, the head-end about equal to or more than 6 mm.

**要旨 :** ウコギ (ヤマウコギ *Acanthopanax spinosus*) の挿し木による増殖法について、挿し穂に用いる枝の部位・太さ、用いる用土、前処理等について検討した。この結果、挿し穂に用いる部位は昨年枝・挿し穂の径が6mm以上、用土は鹿沼土+プロミックス、前処理は浸水で十分であることが判明した。

## 1 はじめに

ヤマウコギやヒメウコギなどのウコギ類は、独特の苦みと、さわやかな香りがあり、山菜として人気が高待ってきている。さらに、根皮は五加皮と呼ばれ、滋養強壮効果のある薬草として知られている。しかし、ウコギは東北地方の一部で栽培されているほかは、栽培が行われておらず、山取り以外の入手は難しいのが現状である。そこで、人気の高いウコギの増殖法について検討を行い、挿し木による増殖法について検討を行った。

## 2 試験方法

挿し穂に用いる枝に関する条件、用土・前処理について検討を行った。各々の条件について、成功率について比較検討し、苗生産のための最適条件について検討した。挿し穂については、10 cm 前後、最低2個の休眠芽があるように調整した。また、挿し木後は温室内に置き、温

度・湿度・灌水などその他の条件については、同条件となるようにした。用土の影響を調べるとき以外は鹿沼土単用で試験を行った。

挿し木が成功した基準については、発根し、鉢上げ後1ヶ月、枯死しなかったものとした。

### 2-1 挿し穂に関する検討

挿し穂に用いる枝の条件を Table-1,2 に示す。Table-1では挿し穂の枝の太さが、成功率に及ぼす影響を調べた。また、Table-2では挿し穂の枝年齢が成功率に及ぼす影響について検討した。なお当年枝については試験時期が他のものと比べて3ヶ月ほど遅れて行った。

Table 1 Experimental Condition

No.	Diameter of Cutting
No. I	under 3mm
No. II	3mm-6mm
No. III	over 6mm

Table 2 Experimental Condition

No.	Condition
No. I	This year
No. II	Last Year
No. III	2Year
No. IV	over 3year

## 2-2 挿し床の検討

挿し床に用いた用土を Table-3 に示す。赤玉土・鹿沼土・プロミックスを混ぜ、成功率に対する用土の影響について検討した。

Table 3 Experimental Condition

No.	Condition
No. I	鹿沼土
No. II	赤玉土
No. III	鹿沼土+プロミックス(10%Vol)
No. IV	赤玉土+プロミックス(10%Vol)
No. V	赤玉土+鹿沼土+プロミックス(10%Vol)

## 2-3 挿し木に関する検討

挿し穂の前処理(浸水)条件を (Table-4)、および発根促進剤の影響について検討した。

Table 4 Experimental Condition

No.	Condition
No. I	Control
No. II	水道水
No. III	水道水+メネデル

## 3 結 果

### 3-1-1 挿し穂径の影響

Table-5 に枯死率に対する挿し穂径の影響を示す。

Table 5 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
I	85	38	47	44.7
II	80	62	18	77.5
III	68	59	9	86.8

挿し穂の径に関しては直径 5 mm 以上の径で成功率が高くなることが判明した。直径 3 mm 以下の径では、挿し木後 2 週間程度で芽がふくらみ、4~5 週間で芽が出るが、その後発根せず枯死するものが多い。最終的に苗として生産ができなくなる。

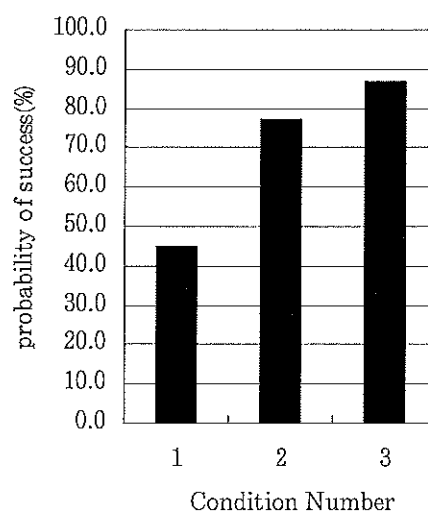


Fig. 1 Effect of diameter of Cutting on Propability of success

### 3-1-2 挿し穂の枝年齢の検討

Table-6 に枯死率に対する枝年齢の影響を示す。

Table 6 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
I	52	12	40	23.1
II	62	54	8	87.1
III	56	42	14	75.0
IV	68	46	22	67.6

これによると、昨年枝の成功率が最も高く、当年枝の成功率が低くなっている。当年枝は伸びたばかりの徒長枝を用いたが、成功率は高くなかった。

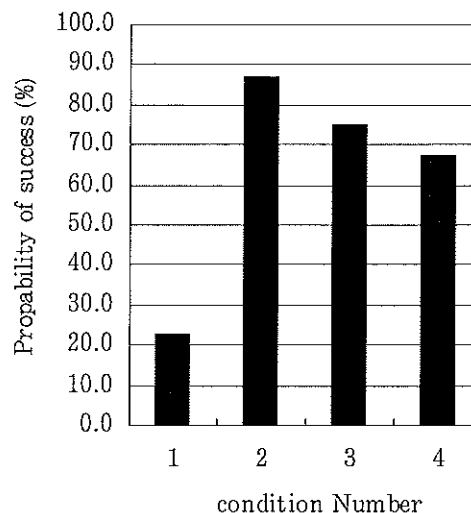


Fig. 2 Effect of age of cutting on Propability of success

### 3-2 用土の影響

成功率に対する用土の影響について検討した。Table-7 に各条件に多する成功率を示す。

Table 7 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
I	40	25	15	62.5
II	40	23	17	57.5
III	40	36	4	90.0
IV	40	31	9	77.5
V	40	32	8	80.0

用土としては、鹿沼土+プロミックス (10% vol) がもっとも適していることがわかった。プロミックスを用いることにより、土壌中の水分が保てるため、成功率に影響したと考えられる。

他の用土についても、枯死率がさほど高くないため、用土については、10%程度のプロミックスを加えることにより十分な効率で苗を得ることができた。

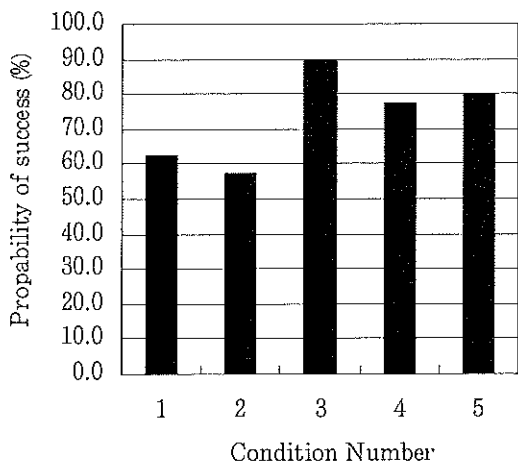


Fig. 3 Effect of Soil on Propability of success

### 3-3 前処理の影響(1)

挿し木の成功率に対する前処理の影響について検討した。調整後、すぐに挿し木をしたものと、水道水に浸水したもの、水道水に0.2%のメネデルを入れたものに浸水させたもので比較した。

Table 8 Result of Examination

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
I	40	24	16	60.0
II	40	28	12	70.0
III	40	30	10	75.0

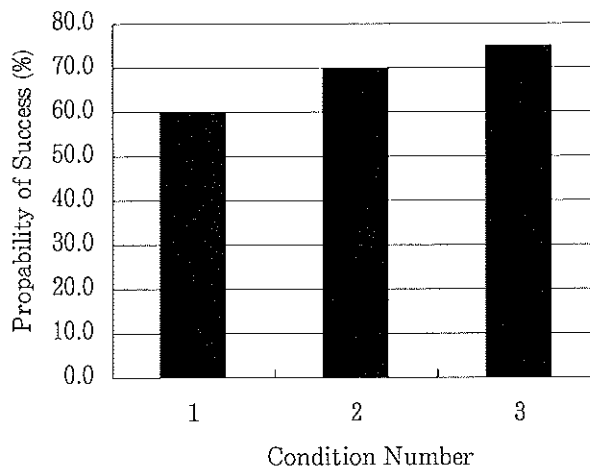


Fig. 4 Effect of previous treatment on Propability of success

### 3-3 前処理の影響(2)

Table-9 に挿し木の成功率に及ぼす発根剤の影響を調べた。今回の試験では発根剤に対する影響はあまりないと考えられる。

Table 9 Effect of NAA on Propability of success

No.	試験数 (本)	成功 (本)	枯死 (本)	成功率 (%)
Control	40	28	12	70.0
NAA	40	30	10	75.0

## 4 考 察

ウコギの挿し木に関する最適条件について検討したところ、以下の条件が最適であることが判明した。

1. 昨年枝の枝を用いる。
2. 5 mm 以上の径の枝を用いる。
3. 挿し床は、鹿沼土+プロミックス (10% Vol)
4. 前処理は水または水+0.5%のメネデル に一晩浸水する。